



# 国際ロータリー第2790地区

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH



## 千葉南ロータリークラブ会報

(創立)1964年3月2日

(例会日)毎・金曜日12時30分

(例会場)オークラ千葉ホテル

(会長)斎藤 昌雄

(幹事)植松 省自

(会報委員長) 永安 重治

(事務局) 〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎043-245-3204)

### 第2423回

平成25年10月11日(金) 点鐘12:30<<晴れ>>

◇ロータリーソング『我等の生業』

◇四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

#### ◆お客様紹介

- ・本日のゲストスピーカー  
千葉日報社 代表取締役社長 萩原 博様
- ・千葉北RC/栗原賢一様

#### ◆会長挨拶及び報告

10月に入ってもこの暑さです。今年は異常気象ということで、私のところも生き物を飼っていますので、困ったなと思っています。

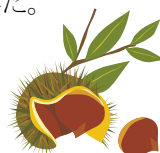
今日は、栗原さんがお見えになっております。私が40周年の時に幹事をしていたとき、ガバナー補佐をされていて、ロータリーのことや裏話などいろいろ教えて頂き、懐かしく思います。

先週、北原会員増強委員長を中心に特別会員増強委員会が行われました。小委員長にお集まり頂き、情報交換が行われました。まだまだ情報が少ないようですので、皆様のご協力を宜しくお願い致します。

#### ◆ご挨拶

##### 千葉北RC・栗原賢一様

私が10年前にガバナー補佐をしていた時に吉田さんが会長で斎藤さんが幹事でした。斎藤さんが会長になったら表敬訪問するというので、10月になってしまいましたが、そんなわけで本日伺いました。



#### ◆委員会報告

##### 東仁川RC訪問例会及び日韓親善会議について

(寺澤一良会員)

今回は、20名の参加で、率でいくと過去にない多くの方にご参加いただきます。例会終了後に打合せがありますので宜しくお願い致します。

#### ◆幹事報告

- ・次週18日(金)の例会は、東仁川RC訪問及び日韓親善会議へ参加のため、変更となります。
- ・7日の地区大会記念ゴルフ大会に8名が参加、3名が賞品をいただくことが出来ました。

#### ◆ニコニコボックス報告

##### 〈斎藤 昌雄会長・植松 省自幹事〉

萩原様、本日の卓話、宜しくお願い申しあげます。

栗原様、ようこそお出で下さいました。ごゆっくりとお楽しみ下さい。

永安さん、写真、有難うございました。

##### 〈江沢 一男会員〉

萩原社長、お忙しい中を出席下さいまして有難うございます。今日の話しを大変楽しみにしています。

今後とも宜しくお願いします。

##### 〈小野 成子会員〉

アラビアンジャニーの公演は、11月7日・8日ですが、3回公演とも水野興業さんの送迎バスを千葉駅前・京葉BK本店前よりご用意しましたので、ご利用下さい。各公演時間に合わせて1時間30分前に出発です。

##### 〈永安 重治会員〉

今日は、会社の都合で例会欠席です。旅行の写真は、集合写真以外で差し上げられる写りのものだけ印刷しましたのでお納め下さい。

##### 〈水野 浩利会員〉

14日の父の一周忌には、大変多くの方にお出でいただく予定となり、感謝致します。

ご案内で曖昧な表現があり、混乱を招いているようですが、香典はご遠慮させて頂いておりますので、お体一つでお越し下さいますようお願い致します。

本日のニコニコボックス	6,000 円	累計	307,000 円
金の箱	550 円	累計	8,137 円

## ◆出席報告(会員数44名)

出席者数30	欠席者数14	ビジター 2	修正出席率 100%
--------	--------	--------	------------

千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい。](#)

千葉RC	月	—	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	10/29	センシティワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	10/22・10/29	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	10/30	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水	10/16・10/30	ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	10/17・10/31	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	10/17・10/24	京成ホテルミラマーレ

### 本日の卓話

演 題⇒『新聞にとって地域密着とは何か～  
新潮流と千葉日報の今後』  
卓話者⇒ (株)千葉日报社  
代表取締役社長 萩原 博様



本日は、新聞業界と千葉日报社の今後について、地域リーダーの集まりである千葉南ロータリーの皆様にお話をさせて頂けるとい、貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。

幹事の方からは『千葉日報の宣伝でいい』という有り難いお話でありましたが自分なりに新聞業界の今後について感じていること、その中で千葉日報はどうしていくべきなのか、これはまだ結論が出ているわけではないのですが思いのままお話させていただきます。

まずは、泣き言から。新聞業界は依然として大変厳しい状況が続いています。新聞のビジネスモデルは、全国津々浦々まで毎朝、それぞれのご自宅まで新聞配達員が届けるという「宅配制度」を基盤として、新聞製作、これは取材および制作・印刷ですが、これにかかった費用を購読料と掲載している広告費で賄うというのが基本です。これ以外に色々な事業・イベントによる収益もありますが基本は販売と広告です。日本ではこの比率が5:5が理想とされています。

街売りが基本の米国ではこの比率が販売2、広告8というように、広告収入が圧倒的でした。米国の新聞はニュースより、そもそも広告を掲載する目的で始まったという歴史もあると思います。このため、米国ではリーマンショック以来新聞広告の激減やインターネット上のニュースサイトが相次ぎ立ち上がり、新聞の無読層が拡大し街売り部数が減少するなどビジネスモデルが崩壊。廃刊したり、紙の新聞をやめて電子版だけにしたたり、巨大エンターテインメント企業に買収されたりと、新聞業界は大きく変貌しました。日本でも基本的なビジネス環境は同じです。それでも新聞の宅配制度が維持されているおかげで、部数の激減という事態にはなっていませんが、日本全体

で毎年 70 万部の部数減となっているという推計値もあります。

さて、そこで新潮流の第1は、米国の新聞社の話です。これは今月 6 日付けの朝日新聞に出ていましたから、ご覧になった方もいると思います。巨大な書籍会社アマゾンに買収された名門新聞である「ワシントン・ポスト」の話です。ワシントン・ポストは「ウォーターゲート事件」をすっば抜くなど、ジャーナリズムの世界では有名な一流新聞です。もちろん経営も黒字で、2010 年度の売り上げは 47 億ドル、営業利益は 5 億 5 千万ドルでした。すでに多くの新聞社が苦しんでいる中でのことです。黒字の理由は新聞のブランド力をてこにした多角化戦略で、その中心は教育産業です。それをアドバイスしたのが同社の株主であり、日本でも投資家として有名なウォーレン・バフェットと言われています。新聞発行では会社はやっていけない、サイドビジネスで食っているという事です。新聞社のビジネスモデルがそんな風になってしまったという事でしょう。そしてとうとう、ワシントン・ポストは身売りし親会社は教育などそれ以外の事業で食っていくことを選択したという話です。

さて日本。朝日新聞社も読売新聞社も、大規模な再開発事業による巨大な業務ビルを建設、開業しました。日本の大手新聞社も多角化戦略は取ってはいますが、今や不動産で利益をだし、その利益が新聞社経営を支えるという時代に入ったように見えます。有力な地方紙も同様で、最近では新潟日报社が建てた新社屋「新潟日報メディアシップ」があります。地上 20 階、北前船をイメージした外観は他の建物を圧倒して壮観です。歴史のある新聞社は優良な不動産資産を持っているわけですが、駅前や県庁前などの一等地に社屋を構える新聞社が、その不動産を有効活用して収益を上げていくというビジネスモデルが日本では今後主流になっていくそんな兆しが見えます。

さて次の話題、新聞部数が減少する中で、奈良県で部数を目覚ましく増やしている新聞販売会社があります。名前は「ジーアンドビー」。若者や若い夫婦世帯では経済的理由やインターネットニュースサイトの発達で、かなりの比率で新聞を購読していません。新聞販売の競争の厳しさはお聞きになったことがあると思いますが、この販売会社も競う相手は今や競争紙ではなく、無読層と断言しています。

今年の春、大阪の百貨店の新入社員 100 人にアンケートしたところ、紙の新聞を読んでいるのは、わずかに 3 人だけ。かつてなら、新聞を読んでいる人は特別な人というような気がしましたが、今は逆です。

では、今の若者は「ニュースが嫌いなのか」。ネットには様々なニュースサイトがあり、スマートフォンにもニュースアプリは必ずある。経済的な理由というなら、「1 か月の無料試読」を試みたが効果はなし。結局今の若い世代には、ニュースが嫌いかどうかは別にして、「新聞を読まない明確な理由がある」という事がわかったそうです。その理由はいろいろあるでしょう。とにかく確信犯として読まない。これでは手の打ちようがありません。

そこで、この販売会社は従来の購買層 50～70 歳代の



中高年世代にサービスを集中することに決めました。そのサービスは、洗剤やビール券といった品物ではなく、「庭の草取り・花の水やり」「電球の交換」「買い物の手伝い」など、家を訪問してのメンテナンス、突き詰めれば「高齢者の見守り」サービスが部数増の突破口になったというのです。この会社の社長が言うには「求められているのは、洗剤やビール券といった品物ではなく、ずっと住んでいた地域に安心して長く暮らしていくための困りごとを解消してくれるサービスなのだそうです。この会社では「まごころサポート営業部」を設置して対応しているそうです。これはもう福祉の世界です。

販売店の人たちに言わせると、新聞社の編集局でどんなに立派な記事を書いても、販売の現場では新聞の中身というのはあまり関係がないという人が多い。我々には耳の痛い話ですが、それにしても販売店がここまでしないと新聞が売れないというのはどういう状況なのか。これが全国の販売店がこぞって取り組めるようなことなのか、今しばらく様子を見るしかないようです。(最近の情報では、この会社は事業をやめたそうです。)

さて、以上紹介した2つの新潮流が今後、どのように日本の新聞業界の中で展開していくのか。少なくとも新聞社は新聞発行という本業の他に金の卵を産む事業を持つ、あるいは成長させていくべきビジネスモデルが出てきました。それと、中高年層を中心とした購買サービスで安定した部数を確保するという方向性も大変示唆的です。

千葉日報の経営方針の核はもちろん「地域密着」です。これは紙面においても事業やイベントにおいてもそうです。なんといっても「千葉日報」という看板を活用できる分野だからです。千葉日报社の場合、大手新聞社のような優良資産はありませんので、不動産は無理です。とすれば、収益の柱となる事業・イベントは既存の中から選んで拡大するか、新たに作るかでしょう。現在の候補と言えば明日12日から始まる「ツールドちば」という自転車イベントです。3日間で延べ1300人ぐらいの自転車愛好家が県内350kmを走破します。この種のイベントとしては国内最大級ですが、自転車ブームもありさらに拡大できればと期待しています。もう一つの方向性として、千葉日报社が行っている事業・イベントは年間40弱ですが、大半を自社の社員で実施しているため、これ以上拡大する余地がありません。このため、外部の専門企業と合弁で企画・運営会社を立ち上げ拡大していくことを検討しています。

新聞拡張については、奈良県の販売会社の事例は経費を考えると現時点では難しそうです。それよりも、現代人の情報入手の多様化ニーズに対応して、紙だけでなく、電子媒体のパソコン、タブレットPC、携帯電話(ガラ携帯と言われているもの)、スマートフォンで千葉日报社が発信した記事などのコンテンツをどこでも、必要な時に、低料金で入手できるようにした方がいいのではないかと。そんなことを考え、対応を検討中です。来年度にはある程度、実現させていきたいと思えます。

また、私たちは、若い層が新聞を読まないからといって、そのままいいとは思っていません。「こども新聞」の

発行や、教育現場に新聞を活用するNIEという取り組みがあります。小さいうちから新聞に親しんでもらい、新聞を読まない確信犯を減らすためですが、今後もこれまでの固定概念を覆すような工夫をしていきたいと考えています。(この他にも地域や読者ニーズに対応した細かな取り組みを展開中です。)

今後ともご支援を宜しくお願いいたします。

(文責 村田 紀之会員)

NIE (えぬあいいー) [日本大百科全書(小学館)]

新聞を素材に学習を進める試み。Newspaper in Educationの頭文字をとったもの。1930年代、ニューヨーク・タイムズが、新聞を利用した学習の展開を提案したのが契機となり、子どもの読書力を高める活動として、新聞を活用する運動が全米に広まった。その後、教育に新聞を活用する試みは世界的に展開されるようになった。

日本でも、社会科などで新聞を利用した教育が試みられていたが、そうした実践を全国的に発展させる目的で、1985年(昭和60)の日本新聞協会加盟各社が集まって行われる新聞大会において、NIE(Newspaper in Education、「教育に新聞を」)が提唱され、NIE専門部会が発足した。その後、89年(平成1)、日本新聞協会と教育界とが提携して、全国組織として「NIE推進協議会」が結成された。98年には活動の中心を日本新聞教育文化財団に移した。各県に委員会が設置され、「教育に新聞を」を共通のスローガンとして、2006年には全国で459校が活動に参加、総合的な学習の時間や社会科、国語などで試みられている。

電子メディア時代を迎えた今日では、メディア・リテラシーmedia literacyの育成が急務になり始めた。メディア・リテラシーには、多様な意味が含まれるが、基本となるのは、情報を取捨選択する能力の育成であろう。同じ情報について、みんなで情報の受け止め方を話し合う、あるいは、各新聞の扱いの違いを読み比べる、あるいは、情報の伝達が時間の経過につれてどう変化するかを確かめること等が、代表的な取り組みとなる。さらに、同一の情報が新聞とテレビ、インターネットとでどう扱いが異なるのかを確かめることも有効な方法であろう。そうした意味では、これからのNIEは、扱う対象を新聞に限定(新聞リテラシー)するのではなく、新聞を中心にテレビやインターネットなどを含めて、メディアへの総合的な判断力や発信力を育成することが重要であろう。

[執筆:深谷昌志]



#### 第2424回例会

<東仁川RC訪問例会>

日時⇒平成25年10月18日(金) 点鐘14:30

会場⇒仁川市・本土

#### 第2425回例会

日時⇒平成25年10月25日(金) 点鐘12:30

卓話⇒『能について』

卓話者⇒能楽師 井上 療治様